

## 入社・入学までに準備しておくこと

就職試験が終盤戦を迎え、また進学予定の生徒に関しては専門学校の試験がほぼ終わり、大学・短大の入試が始まっています。すでに内定や合格を得た多くの3年生は、ホッとした気持ちになっていることと思います。しかしここがゴールではなく、企業や上級学校で働いたり学んだりするためのスタートラインにつく資格を獲得できたという段階にすぎません。

部活動や学習の目標に追われて過ごした、入学からの2年半に比べると、この時期は自分のやりたいことが一番自由にできるときかもしれません。次のステージまで4ヶ月あまりの時間をどのように過ごすのか、よいスタートを切るためにはどんな準備が必要なのか、入社・入学後に役立てられるように、各自必要なことを進路別に考えてみましょう。



### ○ 就職の場合

#### ① 時間を守る

仕事で信用されるための第一歩となります。「決められた時間に集まる」から「**決められた時間に始める**」。始めるためにどれくらいの事前の時間が必要なのか考え、動かなければなりません。私たちの働く社会はまだまだ厳密に時間で管理されています。

#### ② 自ら学ぶ

仕事に必要な知識、技能や社会人としての一般常識などを身に付けるため日々の勉強が必要です。働く上では、**自分から学ぶ姿勢**が求められます。自分の進路先はどんな製品を作り、どのようなサービスを提供しているのか、さらに詳しく調べておきましょう。

#### ③ 健康管理

体調を崩して休みをとると、他の人に迷惑をかけることも…「**働き続けられる体力**」を維持することも大切です。規則正しい生活や、適度な睡眠時間の確保など簡単そうなことでも習慣化させておくことが大切です。また、歯の治療など長期間にわたり時間が必要となることもやっておきましょう。

#### ④ 言葉遣い

社会人になれば、お父さん、お母さんよりも年上の方と一緒に働くこともあるでしょう。気持ちでは尊敬の念を抱いていても、発する言葉ひとつで信頼を失ってしまうことがあります。年長者と話す機会はまだまだたくさんあります。日頃から心がけて練習しておきましょう。また、職場によっては「お客様」と接することもあります。誤った言葉遣いは悪い影響を与えることにもつながりかねません。**言葉遣いや挨拶**に気を配ることは社会人としてとても大切な素養となります。

### ○ 進学の場合 ～上級学校に入学した後に必要とされる力を身に付ける必要があります～

#### ① さまざまな文献を読んでまとめる力

大学ではより専門的な文献や、国語で書かれた文章を読むこともあります。**読解力や語学力、わかりやすくまとめる力**が求められます。専門的な文献に挑戦し、自分なりの考えをまとめる練習に取り組んでみましょう。



#### ② レポートを書くための文章力

提出したレポートで評価される科目もあります。自分のことばで**相手にわかりやすく伝える能力**が必要です。今までコピー(書き写すだけ)の実習報告になっていませんか？文章力、表現力の成長が求められます。

#### ③ 講義に対応できる基礎学力

工業高校は、普通高校より普通教科の授業時数が少ないため、入学後に困らないように、国語、数学、外国語などができる限り学んでおきましょう。また、高校生よりも大人として扱われるのでより**自主的に勉強する姿勢**が必要になります。

## 悪戦苦闘能力 ～実社会で必要とされる能力とは・・・～

皆さんは、それぞれの最終学歴となる学校を卒業後、約40年間におよぶ社会人としての人生を歩んでいかなければなりません。力強く生き抜くためには、どのような力が必要なのか、その力を身に付けるためには、どうしなければならないか、これらのことを早い段階で認識し、行動・実践していくことが大切です。どのような難問にぶつかっても**へこたれず、粘り強く**、あらゆる可能性を探っていくことが**悪戦苦闘能力**です。その能力を身に付けるために心掛けておく5つの項目を示します。[参考：大畑誠也氏（元熊本県立高等学校長）の提唱から]

- ① 挨拶・・・挨拶はコミュニケーションのスタートラインであり、**信頼ある人間関係**をつくるためである。
- ② 体力・・・「疲れる」や「眠い」と言うのは食生活に原因がある。意欲・根性・勇気は食物こそ体力の源泉となる。
- ③ 感性・・・**人の気持ちが分かる人**。そのための体験学習で一番ためになるのは家の手伝いをする事。
- ④ 集中・・・**想いや目標**がなければひたむきさ(集中)は生まれない。全てはこうしたいとの想いからスタートする。
- ⑤ 思考・・・自分の考えを持つ。第一に本を読むこと。第二に人の話をメモしながら聴くこと。それらを自分の中で熟成させたとき、自分の考えになる。

この5つの項目を日常の生活の中で習慣化させることが大切です。特に意識しなくても自然と当たり前に行えることが悪戦苦闘能力を身につける(実社会を生き抜いていける)ことにつながるはずです。

また、その実社会である企業の声も紹介します。本校の進路指導室に送られてくる求人票には、様々な資料も添付されてきます。会社紹介のパンフレット、工場見学の案内はもちろん、中には、「当社が求める人材像」などもあります。その中から印象に残ったものを紹介します。[参考：三栄ビルシステム株式会社資料(一部抜粋)]

「小さいものでも数千点の部品を有し、様々な知識と技術が必要なエレベーター。でも会社に入ってから先輩技術者が細やかに指導するとともに、充実した教育・資格体系が用意されており入社に向けて何も心配することはありません。ただ、いくら先輩が一生懸命教えてくれても、充実した研修体系があっても1年やそこらでは品質・技術No. 1の技術者にはなれません。知識・技術・努力を積み上げ品質・技術No. 1のエンジニアになれば、一生よい仕事に恵まれることでしょう。求める人材はやる気と忍耐力のある人。また、素直な人。知識・技術を身につけるにも、現場などで危ない目に合わないためにも、人の話に素直に耳を傾けられる人であることが重要です・・・」

この文面から企業においても、新しく入ってくる人材(皆さん)は大切な宝であり、一人前の技術者に育てたい、育てほしいという気持ちがよくわかります。また、入社時に求めるものは知識や技術よりも社会人として頑張っていく心や覚悟の方が強いと思います。

先日厚生労働省から発表された資料によると、高校生の離職率は、高校卒業後3年で36.9%程となっています。中にはやむを得ない事情で職を替えなければならないこともあるでしょうが、自分がこの数字を構成する者にならないためにも、高校生活を送る中で、実社会で求められる力を意識しておくことが大切となるでしょう。

### 資格取得に励む秋です・・・

工業高校では6月と11月に多くの資格試験、検定試験が行われます。多くの生徒の皆さんが合格を目指して頑張っていることでしょう。資格・検定の多くは、これまでの専門的な学習、実習の成果を試すものや、設備、機器、物品の取扱に関する資格や能力を証明するものです。工業高校で学ぶ生徒としてひとつでも多くの資格・検定をクリアすることが自分の専門性を高めるために役立ちます。「この資格を取ったので即就職！」となるものは少ないかもしれませんが、ひとつひとつの積み重ねが自分を成長させてくれることに間違いはありません。しかし、多くの資格試験に共通することは合格率の低下です。合格を勝ち取るためには十分な学習が必要不可欠です。筆者のまわりでも補習時間の学習だけで満足してしまい、自宅で、自ら進んで取り組む様子が感じられない生徒も多いと感じます。「時間をかけて、諦めずに、最後まで頑張り抜く」ことこそが合格へつながる道です。皆さんの健闘を期待しています！